秋葉道中日記ノ控　天保一〇年一月

【読み下し文】

十亥年正月
秋葉道中日記の控
下小山田村若林氏

目出度初まり
亥正月二日秋葉寺え出立、同日雲り、昼より小雨少々降り出し、星谷勧音堂前迄要助馬に乗り
一、廿八文　星谷茶代・厚木渡し場はし銭
一、四拾八文　厚木釜成屋昼飯料
同日早七つ時大磯宿へ着く、一日晩泊り、大磯宿右り側山本屋甚右衛門
一、弐百廿四文　同旅籠代
一、廿四文　同所茶代割り
三日小雨降り
大磯宿より出立、夫れより休まず湯本迄五里行く、同日昼飯湯本にて支度
一、四拾八文　湯本昼飯代
一、拾六文　わらんじ代
夫れより壱里行く、畑宿にて小休致す
一、六拾文　畑宿雑煮代
是より山坂難所の道なり、七つ時頃御関所を通り、三日晩泊り、箱根宿右り側はふや四郎右衛門
一、弐百四拾八文　同所はたご
一、四拾九文　茶代割合
一、三十弐文　途中茶料
四日雪降り
箱根より三島へ加籠に三朱にて乗り、雪雨まじり降り、誠道悪敷く、夫れより途中より不快にて沼津迄又六百文にて乗り、九つ半時頃沼津へ着く、同日泊り、沼津町右り側元問屋
一、三百文　はたご
一、三十弐文　吉原昼飯
一、三十弐文　わらんじ八足

五日沼津より出立

一、三十弐文　元市場白酒

一、四拾八文　さった峠あわび焼き

一、三十六文　富士川船賃

五日朝沼津より出立、吉原にて昼飯支度、元市場富士の白酒小休致す、同日沖津宿へ暮方に着く、五日晩泊り沖津宿右り側みのぶ屋

同日

一、弐百四拾八文　はたご

六日雨降り

朝沖津宿より出立、夫れより府中町迄休まず行く、御城下通り仕舞、阿部川手前にて餅名物にて小休致す、此の所川越し問屋にて賃銭壱人前四拾五文づつ出し川こし致す、夫れより丸子宿にて名物とろろ汁くい、夫れより宇津の谷峠十団子より下りて岡部宿へ出る

六日

一、十、五拾文　阿部川餅

一、六拾四文　丸子とろろ汁

一、廿四文　くし柿

一、四拾八文　わらじ

一、廿八文　藤枝月代

六日晩泊り、藤枝宿左り側紀伊国屋源兵衛

一、弐百廿四文　はたご

七日

藤枝宿より出立、宿外れ直ちに瀬戸川拾六文越し賃、外に八文心づき遣す、夫れより島田宿なり、大井川越し賃定り、此の節水増しに付き九拾弐文の掛け札之れ有り、壱人前三百文払ひ、四人にて連台にて越し、上りて百文四人分祝儀遣す、是よりかなや宿なり、峠壱つ越し又壱つ登りて小夜の中山あめの餅峠なり、是より下りて日坂宿なり

日坂宿にて

一、四拾八文　昼飯

一、拾六文　あめ壱本

一、拾文　同餅

一、四拾文　みかん菓子

夫れより掛川宿外れより秋葉山御鳥居より入る、此の所より五十丁道三

里行く、七日晩泊り、森町右り側いづみや
一、弐百四拾八文　はたご代
八日晴天に成る
森町より出立、途中より戌亥迄百四拾八文にて馬に乗り、同所にて昼飯
支度致し、八つ半頃麓町へ着く、夫れより御山へ登山致し、茶漬・酒・肴
沢山出る、茶料として四人にて弐百文出し、同日泊り、麓町右り側高木屋
安兵衛
一、三百文　はたご
弐百七十弐文
一、三百七拾弐文　森町足袋壱足
一、百文　途中菓子品々
一、四拾八文　麓にてあんま
九日晴天
麓より出立、夫れより三倉にて小休致し直ちに出立、森町にて
一、七十弐文　森町昼飯料
森町より掛川宿まで五十町道三里、仕立て駕籠に乗り壱朱と五拾文賃銭
なり、外に四拾八文酒代遣す、九日晩泊り、掛川宿ねじがね屋
一、弐百四拾八文　はたご
十日晴天
掛川宿より出立、夫れより日坂より金谷宿迄峠弐つ有り、此の所弐百文
にて加籠に乗り、夫れより大井川賃弐百七拾八文にて越し、島田宿にて昼
飯、此の所より藤枝迄弐百文にて加籠に乗り、藤枝より岡部迄百七拾弐文
にて加籠に乗り、同日泊りは丸子宿右り側桑名屋善兵衛
一、弐百四拾八文　はたご
十一日雨降り
丸子宿より出立、阿部川四拾五文にて早朝に越し、夫れより府中宿へ出
づ、此の所より段々雨大降りに成る、江尻宿へ出る、沖津清見寺前茶やに
て七拾弐文にて昼飯支度、此の所より雪雨まじり大降り、夫れよりさった峠
へ掛り、八つ半時頃由井宿へ着く、同日泊り、由井宿右り側うんどん屋、此
の門当宿壱番の能き宿なり
一、弐百四拾八文　はたご
十二日晴天
由井宿より出立、夫れより岩渕栗の粉名物にて小休いたし、藤川廿四

文船賃払い渡り、元市場白酒にて小休致し、夫れよりよし原宿より原宿迄百廿四文にて馬に乗り、原宿にて昼飯支度、夫れより沼津御城下町を通り、同日七つ時頃三島宿へ着致す、十二日晩泊り、三島明神前右り側松葉や

一、弐百四拾八文　はたご

十三日雲り

三島宿より出で立ちて山田茶屋にて小休致す、此の所より箱根宿迄弐百文にて加籠に乗り、四拾八文酒代遣す、箱根宿はふやにて小休、夫れより畑宿にて休む、小田原町へ八つ少々過ぎに着く、夫れより大磯宿迄金弐朱にて加籠に乗り、暮六つ時大磯宿へ着く、十三日泊り、大磯宿山本屋甚右衛門

一、百廿四文　はたご代

十四日天晴れ

大磯宿より出立、厚木宿にて天王町穀屋にて昼飯支度、夫れより出で、星谷・台・畑原より雪沢山、芝・原共道明き申さず、道中壱番大難儀致し、漸く暮六つ時頃目出度帰村いたし候事、正月十四日暮六つ時帰村

覚

同十五日昼より目出度日待ち致す、講仲ケ間一同寄り、心ばかり八升拵う、御神酒代例の通り拾弐文集め、右小麦粉の分に庄兵衛方より弐升菊五郎持参参り、七つ時片□致す所、一同帰り候事、亥正月十五日

差し上げ申す一札の事

一、柳沢八郎右衛門知行所百姓何人、右のもの共此度遠州秋葉寺え参詣の者に相違御座無く候間、御関所御通せ遊ばさせられ下さるべく候、之れに依り通り手形差し出し奉り候処、件の如し

武州多摩郡下小山田村

名主　何右衛門

天保十亥年正月二日

相州箱根

御関所

御役人中様